

2019/10/30

柏の景気情報(2019年9月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報(2019年9月分)

○ 調査期間 : 2019年9月24日 ~ 2019年10月10日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	71	45.5%
建設	44	19	43.2%
製造	33	15	45.5%
卸・小売	44	23	52.3%
サービス	35	14	40.0%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

--

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【2019年9月の業況についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.3(前月水準▲28.5)となり、マイナス幅が10.2ポイント縮小した。

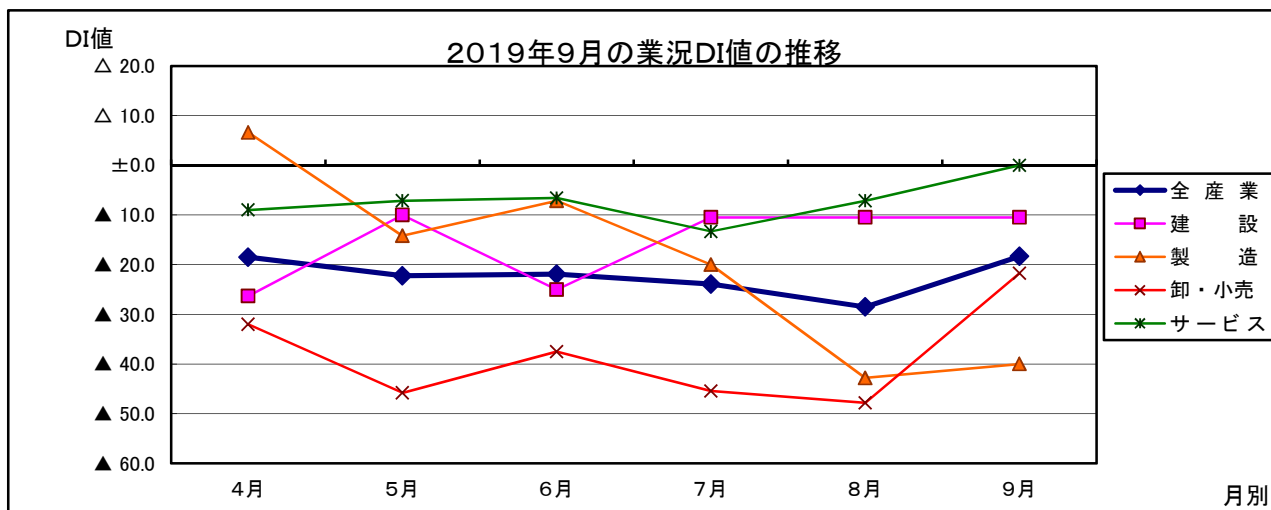
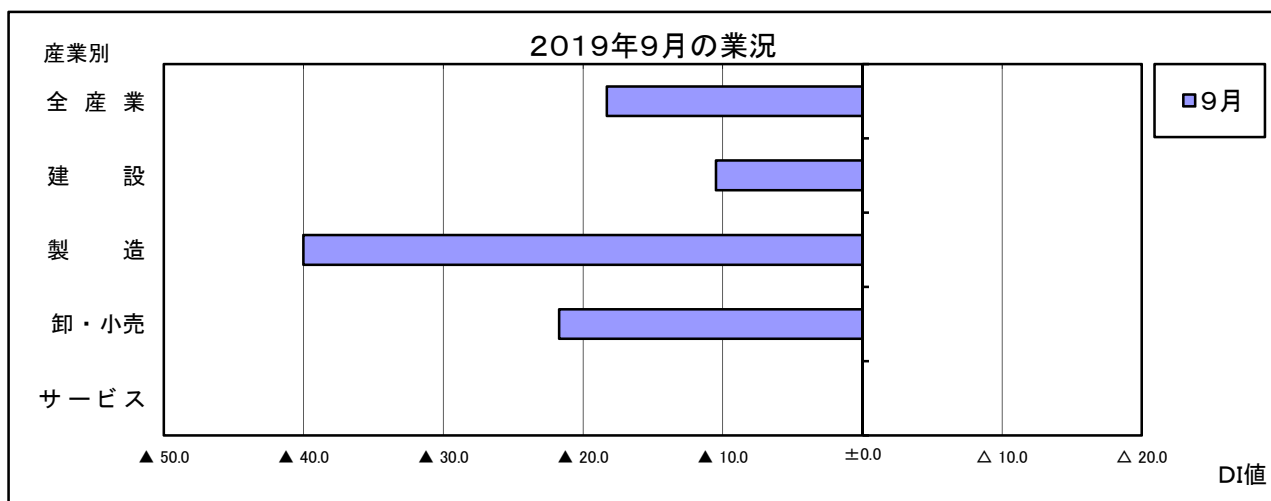
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲21.7(同▲47.8)、サービス業±0.0(同▲7.1)、製造業▲40.0(同▲42.8)である。変らない業種は、建設業▲10.5(同▲10.5)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.6(前月水準▲22.8)となり、マイナス幅が10.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△14.2(同▲14.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲6.6(同▲21.4)、卸小売業▲39.1(同▲43.4)である。変らない見通しの業種は、建設業▲5.2(同▲5.2)である。

2019年9月業況DI値(前年同月比)の推移

	2019年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月～12月(9月～11月)
全産業	▲18.5	▲22.2	▲21.9	▲23.9	▲28.5	▲18.3	▲12.6(▲22.8)
建設	▲26.3	▲10.0	▲25.0	▲10.5	▲10.5	▲10.5	▲5.2(▲5.2)
製造	△6.6	▲14.2	▲7.1	▲20.0	▲42.8	▲40.0	▲6.6(▲21.4)
卸・小売	▲32.0	▲45.8	▲37.5	▲45.4	▲47.8	▲21.7	▲39.1(▲43.4)
サービス	▲9.0	▲7.1	▲6.6	▲13.3	▲7.1	±0.0	△14.2(▲14.2)



【2019年9月の売上についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.9(前月水準▲21.4)となり、マイナス幅が2.5ポイント拡大した。

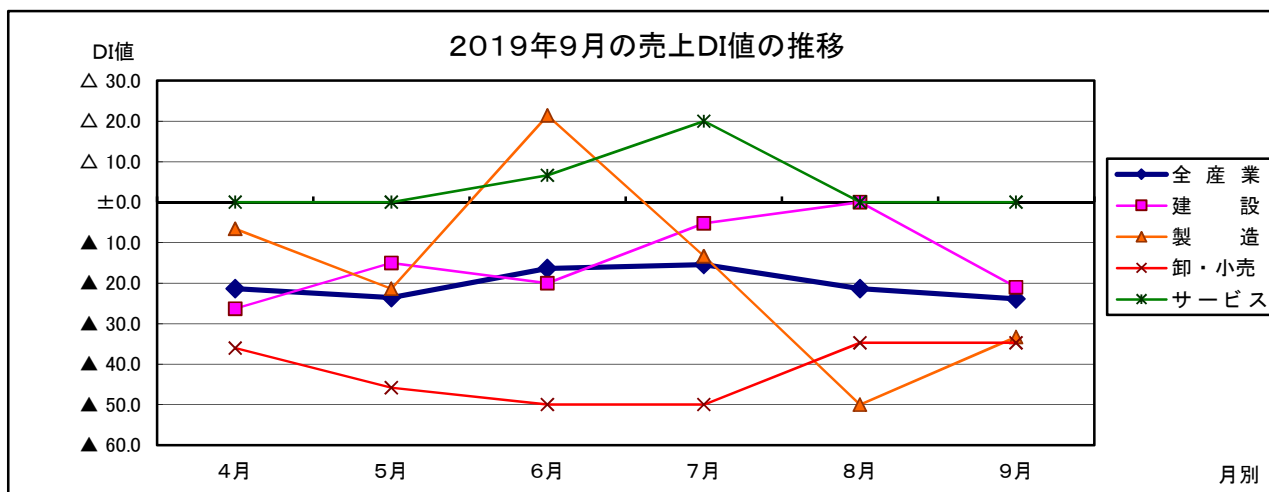
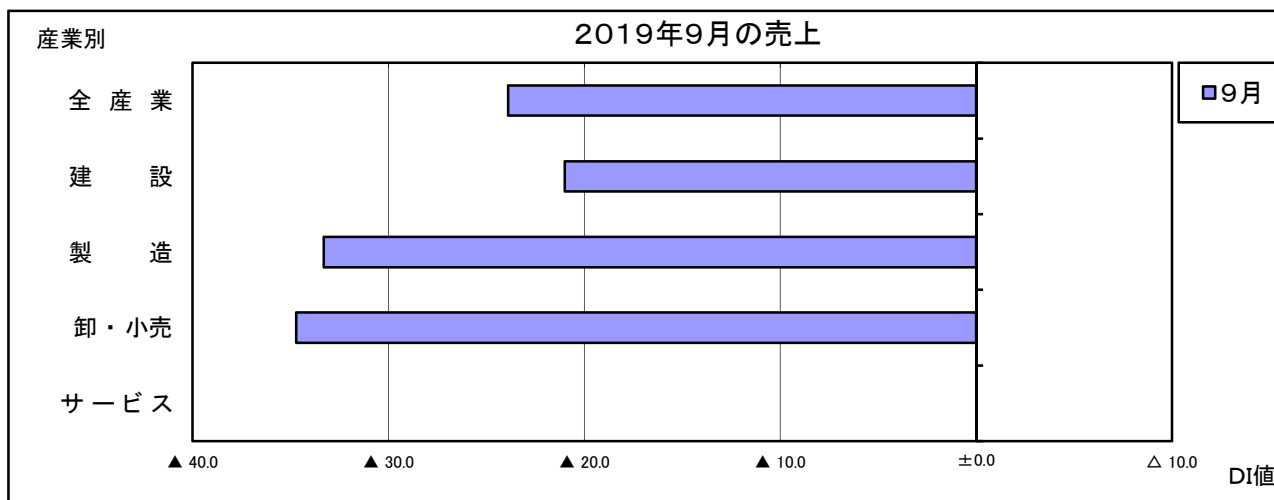
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲33.3(同▲50.0)である。変らない業種は、卸小売業▲34.7(同▲34.7)、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲21.0(同±0.0)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.8(前月水準▲17.1)となり、マイナス幅が7.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△5.2(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△13.3(同▲21.4)、サービス業△7.1(同▲7.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲47.8(同▲34.7)である。

2019年9月の売上DI値(前年同月比)の推移

	2019年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲21.4	▲23.6	▲16.4	▲15.4	▲21.4	▲23.9	▲9.8(▲17.1)
建設	▲26.3	▲15.0	▲20.0	▲5.2	±0.0	▲21.0	△5.2(±0.0)
製造	▲6.6	▲21.4	△21.4	▲13.3	▲50.0	▲33.3	△13.3(▲21.4)
卸・小売	▲36.0	▲45.8	▲50.0	▲50.0	▲34.7	▲34.7	▲47.8(▲34.7)
サービス	±0.0	±0.0	△6.6	△20.0	±0.0	±0.0	△7.1(▲7.1)



【2019年9月の採算についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.3(前月水準▲30.0)となり、マイナス幅は2.3ポイント拡大した。

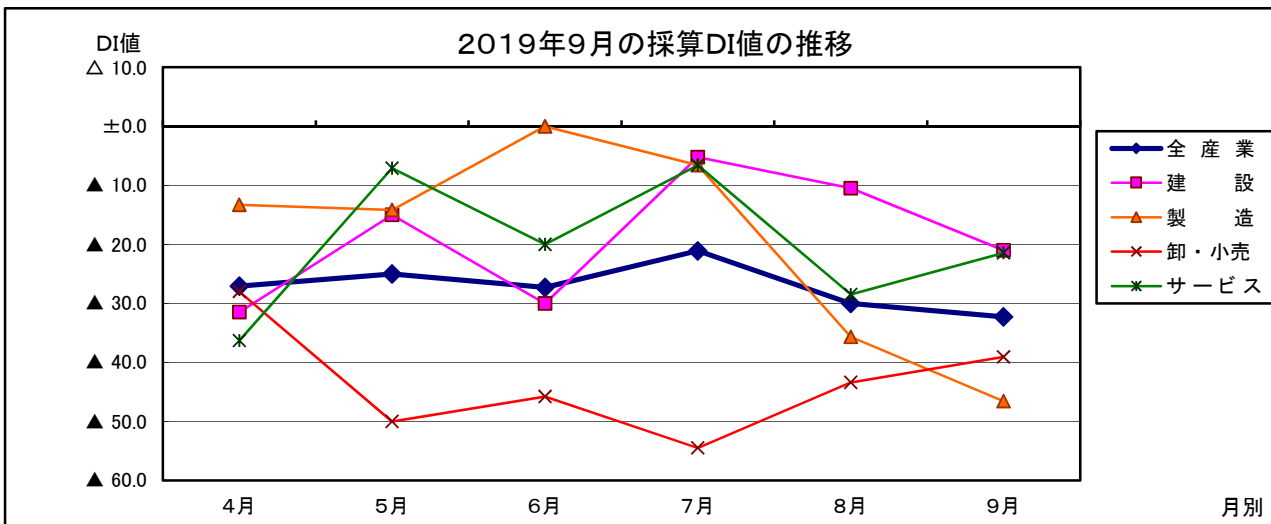
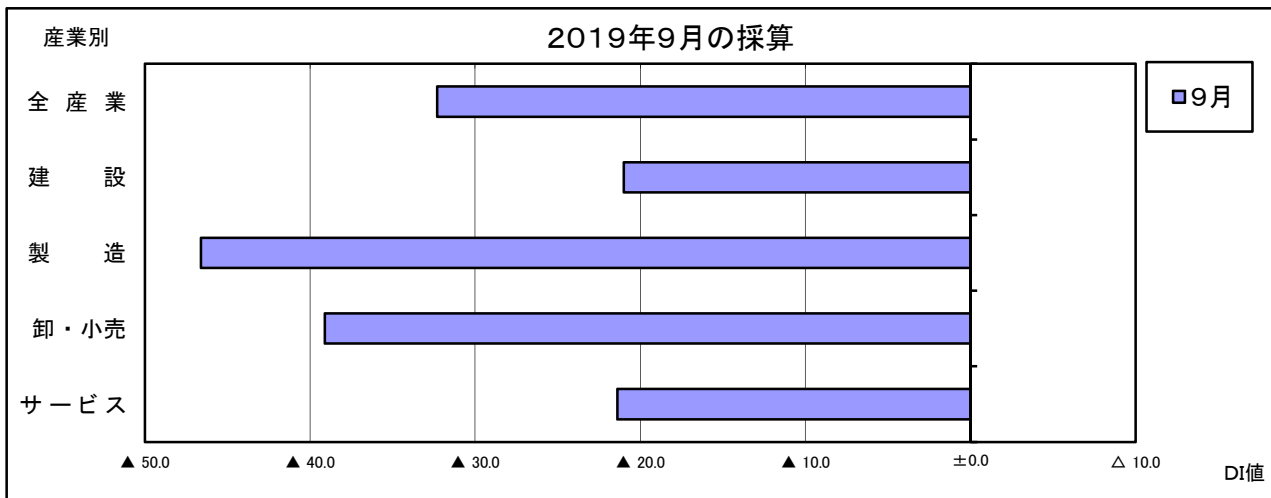
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲21.4(同▲28.5)、卸小売業▲39.1(同▲43.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲46.6(同▲35.7)、建設業▲21.0(同▲10.5)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.0(前月水準▲24.2)であり、マイナス幅が10.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△7.1(同▲14.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲6.6(同▲28.5)、卸小売業▲39.1(同▲43.4)である。変らない見通しの業種は、建設業▲5.2(同▲5.2)である。

2019年9月の採算DI値(前年同月比)の推移

	2019年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月～12月(9月～11月)
全産業	▲27.1	▲25.0	▲27.3	▲21.1	▲30.0	▲32.3	▲14.0(▲24.2)
建設	▲31.5	▲15.0	▲30.0	▲5.2	▲10.5	▲21.0	▲5.2(▲5.2)
製造	▲13.3	▲14.2	±0.0	▲6.6	▲35.7	▲46.6	▲6.6(▲28.5)
卸・小売	▲28.0	▲50.0	▲45.8	▲54.5	▲43.4	▲39.1	▲39.1(▲43.4)
サービス	▲36.3	▲7.1	▲20.0	▲6.6	▲28.5	▲21.4	△7.1(▲14.2)



【2019年9月の仕入単価についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.6(前月水準▲25.7)となり、マイナス幅が10.9ポイント拡大した。

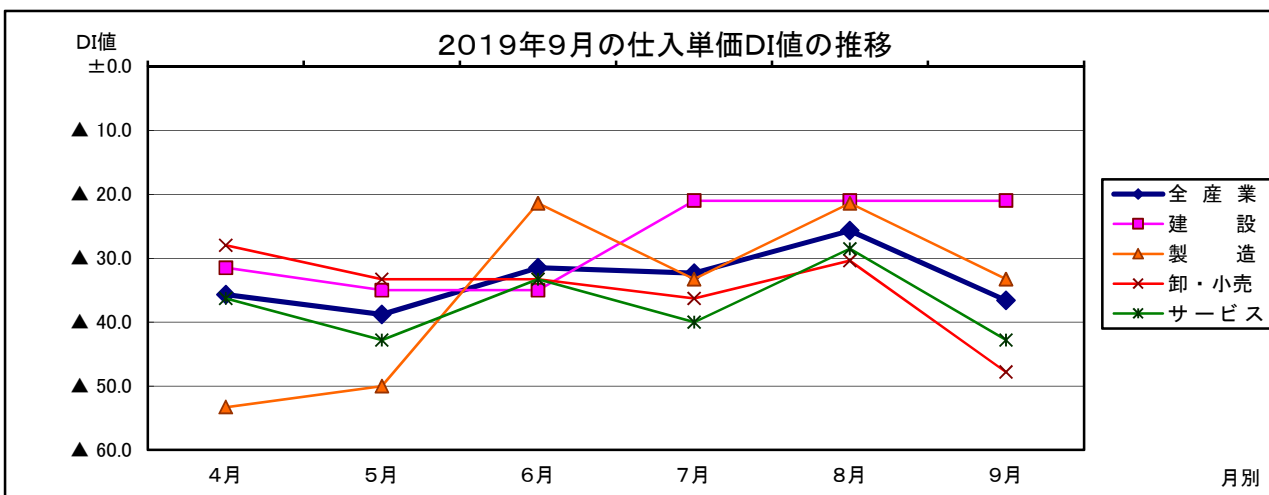
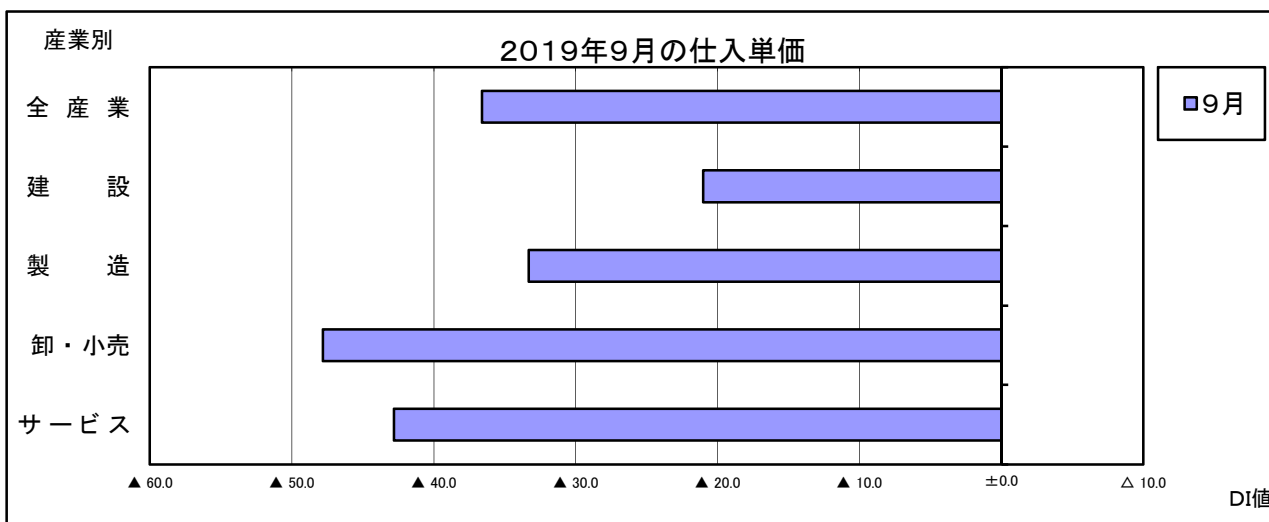
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、建設業▲21.0(同▲21.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲47.8(同▲30.4)、サービス業▲42.8(同▲28.5)、製造業▲33.3(同▲21.4)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.5(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が9.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲20.0(同▲7.1)、建設業▲31.5(同▲21.0)、卸小売業▲39.1(同▲30.4)、サービス業▲21.4(同▲14.2)である。

2019年9月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	2019年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲35.7	▲38.8	▲31.5	▲32.3	▲25.7	▲36.6	▲29.5(▲20.0)
建設	▲31.5	▲35.0	▲35.0	▲21.0	▲21.0	▲21.0	▲31.5(▲21.0)
製造	▲53.3	▲50.0	▲21.4	▲33.3	▲21.4	▲33.3	▲20.0(▲7.1)
卸・小売	▲28.0	▲33.3	▲33.3	▲36.3	▲30.4	▲47.8	▲39.1(▲30.4)
サービス	▲36.3	▲42.8	▲33.3	▲40.0	▲28.5	▲42.8	▲21.4(▲14.2)



【2019年9月の従業員についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△30.9(前月水準△25.7)となり、プラス幅が5.2ポイント拡大した。

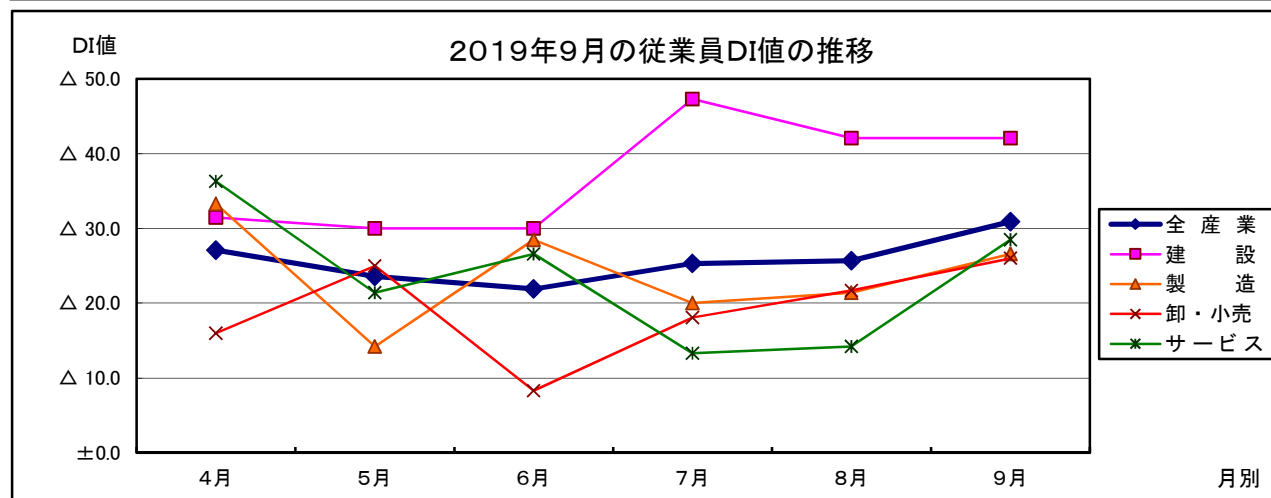
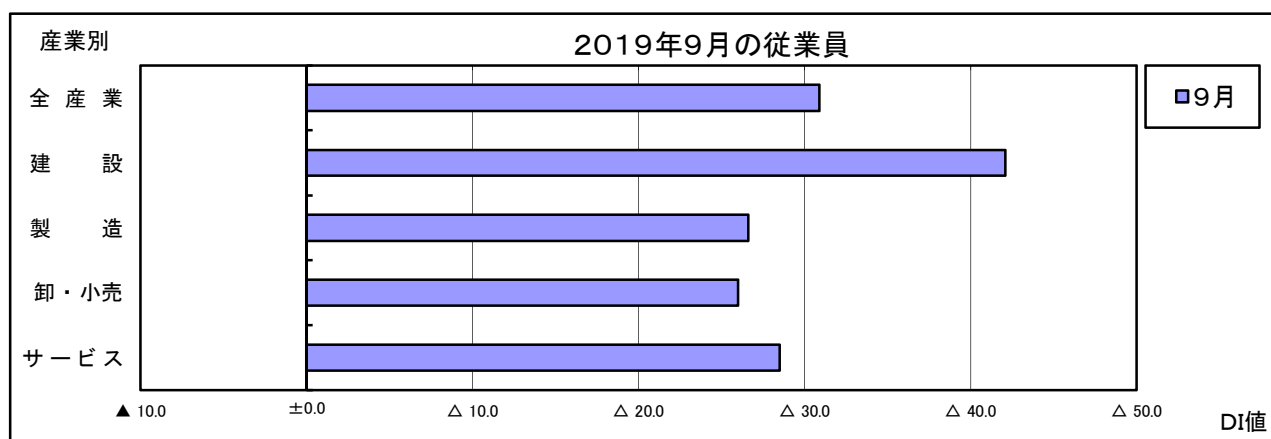
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△28.5(同△14.2)、製造業△26.6(同△21.4)、卸小売業△26.0(同△21.7)である。変らない業種は、建設業△42.1(同△42.1)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△30.9(前月水準△25.7)となり、プラス幅が5.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△28.5(同△14.2)、製造業△33.3(同△21.4)、建設業△42.1(同△36.8)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業△21.7(同△26.0)である。

2019年9月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	2019年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	△27.1	△23.6	△21.9	△25.3	△25.7	△30.9	△30.9(△25.7)
建設	△31.5	△30.0	△30.0	△47.3	△42.1	△42.1	△42.1(△36.8)
製造	△33.3	△14.2	△28.5	△20.0	△21.4	△26.6	△33.3(△21.4)
卸・小売	△16.0	△25.0	△8.3	△18.1	△21.7	△26.0	△21.7(△26.0)
サービス	△36.3	△21.4	△26.6	△13.3	△14.2	△28.5	△28.5(△14.2)



【2019年9月の資金繰りについての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9. 8(前月水準▲11. 4)となり、マイナス幅が1. 6ポイント縮小した。

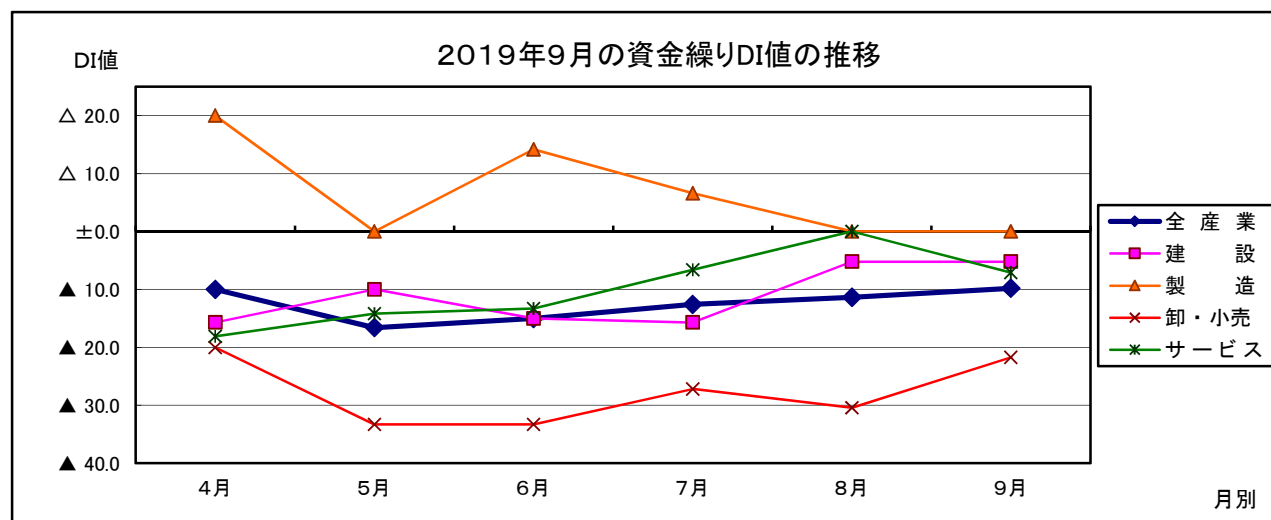
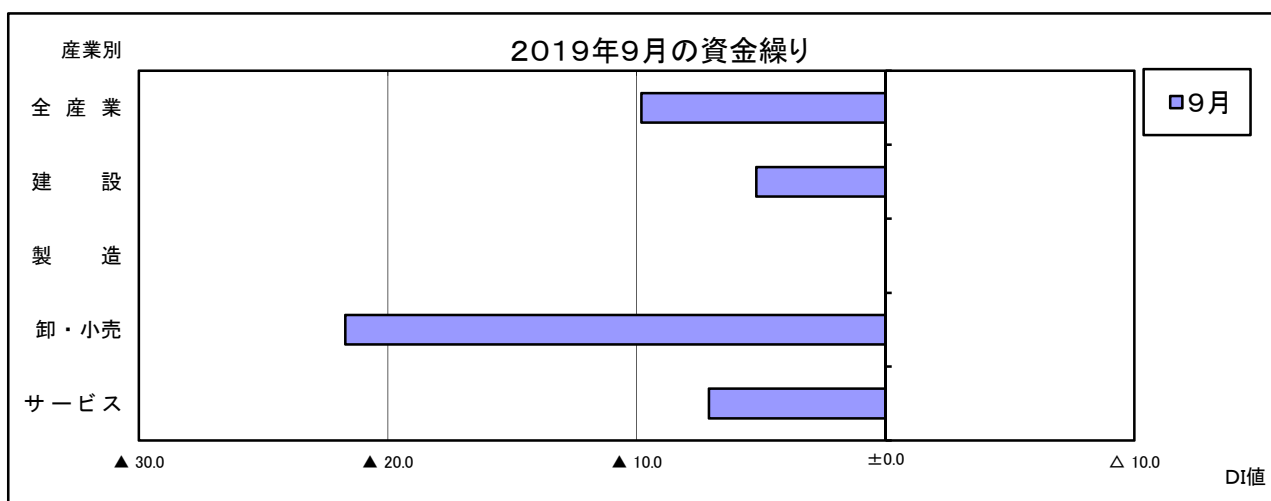
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲21. 7(同▲30. 4)である。変らない業種は、建設業▲5. 2(同▲5. 2)、製造業±0. 0(同±0. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲7. 1(同±0. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2. 8(前月水準▲8. 5)となり、マイナス幅が5. 7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△5. 2(同±0. 0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0. 0(同▲14. 2)、卸小売業▲17. 3(同▲26. 0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△7. 1(同△14. 2)である。

2019年9月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	2019年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全 産 業	▲ 10.0	▲ 16.6	▲ 15.0	▲ 12.6	▲ 11.4	▲ 9.8	▲ 2.8 (▲ 8.5)
建 設	▲ 15.7	▲ 10.0	▲ 15.0	▲ 15.7	▲ 5.2	▲ 5.2	△ 5.2 (±0.0)
製 造	△ 20.0	±0.0	△ 14.2	△ 6.6	±0.0	±0.0	±0.0 (▲ 14.2)
卸・小売	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 27.2	▲ 30.4	▲ 21.7	▲ 17.3 (▲ 26.0)
サ ー ビ ス	▲ 18.1	▲ 14.2	▲ 13.3	▲ 6.6	±0.0	▲ 7.1	△ 7.1 (△ 14.2)



【2019年9月の調査結果のポイント】

《全産業況DIは改善。先行きも回復を見込むが不透明感残る》

9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.3(前月水準▲28.5)となり、マイナス幅が10.2ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲21.7(同▲47.8)、サービス業±0.0(同▲7.1)、製造業▲40.0(同▲42.8)である。変らない業種は、建設業▲10.5(同▲10.5)である。

【建設業】からは、「問合せが増えたが、シビアな見積もり比較が多い。独自のこだわりがより重要になってきている」(一般土木建築工事業)、「オリンピック後、また増税か」(職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「人材確保の為の賃金アップは将来的にも必要。しかし、社内全体の生産性の向上が無ければ実現不可能であり、業務全体の見直し、改善が必要になってくると思う」(自動車付属品製造業)、「政治情勢の経済に与える影響は、一般生活者も飲み込んでいる。政治的都合に偏る経済は縮小ならざるを得ない」(印刷業)、「9月以降の動きが出てきたが、いつまで続くか分からない」(化学工業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「下位等級の正社員及びパート・契約社員等の有期雇用者に限り、賃上げ(1~2千円)を実施。また、「同一労働・同一賃金」について労使で議論し、2020年4月、法施行のへの条件整備に向けた取り組みを進める」(百貨店)、「プレミアム商品券に少し期待」(洋菓子店)、「例年に比べ誕生日ケーキの販売が少なく、売上が落ち込んだ」(洋菓子店)、「顧客のこだわりが強くなってきており、自然素材の住宅を作りたいという問い合わせは多い。自社で職人を育成する等、他社との差別化を図る事が今後重要だと考えている」(建築材料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「荷主の適正運賃(運賃、荷待ち時間、付帯作業)への認知が徐々に進んでいるが、採算ベースでは以前厳しい状況」(一般貨物自動車運送業)、「外国人の購入希望者が増加。住宅購入意欲は旺盛。売り物件については高齢者の資産処分、相続案件の相談が多い」(不動産管理業)、「人手不足は何よりも重大な問題、地方からの応援を期待する」(ソフトウェア業)、「従業員不足により生産性が上がり営業時間が少なくなり、全体的に不足気味だった。10月は1人戻ってきたのでやや良くなると思う」(食堂・レストラン)、「ダブルデッキ上で商売をしている方達の賃料を知りたい」(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

◎台風15号

「BCPの具体的な策定は今後ますます重要になってくると思う。しかし、今回の台風15号による被害の様に、事業の継続、取引の維持、早期再開以前に、ライフラインの早期復旧が最も重要と考える」(自動車付属品製造業)、「台風の影響を受け、卵は品薄、ドライアイスは入荷無しだったが、現在は回復傾向」(大型小売店)、「台風の影響で修理の注文は多いが職人不足」(建築材料卸売業)、「台風被害による雨漏れ等の対応に苦労している」(不動産管理業)、「今回の台風被害で今一度、保険と物件防災管理を見直し、できることは事前に準備しておきたい」(不動産賃貸・管理業)との声が寄せられた。

◎消費増税

「消費増税に伴う影響はないが、今後の見通しが不明。消費者の動向がつかめない」(電気工事業)、「消費税引き上げ後の動向が心配」(日本料理)、「増税前特需の為、個人消費が拡大。10月いっぱいには予定が埋まってしまい、現在は11月の注文を受付中」(畳工事請負・畳製造販売業)、「10月からの消費増税に伴う衣料品、日用品等のまとめ買いについては、今の住宅事情等の影響もあるのか、予想より少ない」(大型小売店)、「消費税が上がるが、増税前の駆け込み需要はほぼない」(不動産管理業)、「お客様との金額交渉の際、消費税が上がっても予算が変わらず、実質本体の値引きを強要される場合があり頭が痛い！」(印刷業)、「消費増税に伴う価格転嫁はしなかったが、問屋の輸送費増加や小麦、卵の価額上昇で今後の値上げは避けられない」(菓子・パン小売業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲18.5	▲26.3	△6.6	▲32.0	▲9.0
5月	▲22.2	▲10.0	▲14.2	▲45.8	▲7.1
6月	▲21.9	▲25.0	▲7.1	▲37.5	▲6.6
7月	▲23.9	▲10.5	▲20.0	▲45.4	▲13.3
8月	▲28.5	▲10.5	▲42.8	▲47.8	▲7.1
9月	▲18.3	▲10.5	▲40.0	▲21.7	±0.0
見通し	▲12.6	▲5.2	▲6.6	▲39.1	△14.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 23.9	▲ 9.8	▲ 32.3	▲ 14.0	▲ 36.6	▲ 29.5	△ 30.9	△ 30.9
建設	▲ 21.0	△ 5.2	▲ 21.0	▲ 5.2	▲ 21.0	▲ 31.5	△ 42.1	△ 42.1
製造	▲ 33.3	△ 13.3	▲ 46.6	▲ 6.6	▲ 33.3	▲ 20.0	△ 26.6	△ 33.3
卸・小売	▲ 34.7	▲ 47.8	▲ 39.1	▲ 39.1	▲ 47.8	▲ 39.1	△ 26.0	△ 21.7
サービス	±0.0	△ 7.1	▲ 21.4	△ 7.1	▲ 42.8	▲ 21.4	△ 28.5	△ 28.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 18.3	▲ 12.6	▲ 9.8	▲ 2.8
建設	▲ 10.5	▲ 5.2	▲ 5.2	△ 5.2
製造	▲ 40.0	▲ 6.6	±0.0	±0.0
卸・小売	▲ 21.7	▲ 39.1	▲ 21.7	▲ 17.3
サービス	±0.0	△ 14.2	▲ 7.1	△ 7.1

【2019年9月業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	トピック	業種
建設業	問合せが増えたが、シビアな見積もり比較が多い。独自のこだわりがより重要になってきている。	消費者動向の変化	一般土木建築工事業
	消費増税に伴う影響はないが、今後の見通しが不明。消費者の動向がつかめない。	消費増税	電気工事業
	増税前特需の為、個人消費が拡大。10月いっぱいには予定が埋まってしまい、現在は11月の注文受付中。	消費増税	量工事請負・量製造販売業
	2020年からが心配。オリンピック後、また増税か。	先行き不透明	職別工事業
製造業	人材確保の為の賃金アップは将来的にも必要。しかし、社内全体の生産性の向上が無ければ実現不可能であり、業務全体の見直し、改善が必要になってくると思う。BCPの具体的な策定は今後ますます重要になってくると思う。しかし、今回の台風15号による被害の様に、事業の継続、取引の維持、早期再開以前に、ライフラインの早期復旧が最も重要と考える。	生産性の向上 台風15号	自動車付属品製造業
	政治情勢の経済に与える影響は、一般生活者も飲み込んでいる。政治的都合に偏る経済は縮小ならざるを得ない。	政治情勢の経済影響	印刷業
	お客様との金額交渉の際、消費税が上がっても予算が変わらず、実質本体の値引きを強要される場合があり頭が痛い！	消費増税	印刷業
	9月以降の動きが出てきたが、いつまで続くかまだ分からない。	先行き不透明	化学工業
卸小売業	10月からの消費増税に伴う衣料品、日用品等のまとめ買いについては、今の住宅事情等の影響もあるのか、予想より少ない。台風の影響を受け、卵は品薄、ドライアイス入荷無しだったが、現在は回復傾向。	消費増税 台風15号	大型小売店
	下位等級の正社員及びパート・契約社員等の有期雇用者に限り、賃上げ(1～2千円)を実施。また、「同一労働・同一賃金」について労使で議論し、2020年4月、法施行のへの条件整備に向けた取り組みを進める。	賃上げ	百貨店
	プレミアム商品券に少し期待。	プレミアム商品券	洋菓子店
	例年に比べ誕生日ケーキの販売が少なく、売上が落ち込んだ。	売上減少	洋菓子店
	消費増税に伴う価格転嫁はしなかったが、問屋の輸送費増加や小麦、卵の価額上昇で今後の値上げは避けられない。	消費増税	菓子・パン小売業
	台風の影響で修理の注文は多いが職人不足。顧客のこだわりが強くなってきており、自然素材の住宅を作りたいという問い合わせは多い。自社で職人を育成する等、他社との差別化を図る事が今後重要だと考えている。	台風15号 消費者動向の変化	建築材料卸売業
サービス業	荷主の適正運賃(運賃、荷待ち時間、付帯作業)への認知が徐々に進んでいるが、採算ベースは以前厳しい状況。	運送業の適正運賃化	一般貨物自動車運送業
	消費税が上がるが、増税前の駆け込み需要はほぼない。台風被害による雨漏れ等の対応に苦労している。外国人の購入希望者が増加。住宅購入意欲は旺盛。売り物件については高齢者の資産処分、相続案件の相談が多い。	消費増税 台風15号	不動産管理業
	今回の台風被害で今一度、保険と物件防災管理を見直し、できることは事前に準備しておきたい。	台風15号	不動産賃貸・管理業
	人手不足は何よりも重大な問題、地方からの応援を期待する。	人手不足	ソフトウェア業
	従業員不足により生産性が上がり営業時間が少なくなり、全体的に不足気味。10月は1人戻ってきたのでやや良くなると思う。	人手不足	食堂・レストラン
	ダブルデッキ上で商売をしている方達の賃料を知りたい。	ダブルデッキ上の賃料	不動産賃貸業
	消費税引き上げ後の動向が心配。	消費増税	日本料理

◎台風15号

「BCPの具体的な策定は今後ますます重要になってくると思う。しかし、今回の台風15号による被害の様に、事業の継続、取引の維持、早期再開以前に、ライフラインの早期復旧が最も重要と考える」(自動車付属品製造業)、「台風の影響を受け、卵は品薄、ドライアイスが入荷無しだったが、現在は回復傾向」(大型小売店)、「台風の影響で修理の注文は多いが職人不足」(建築材料卸売業)、「台風被害による雨漏れ等の対応に苦労している」(不動産管理業)、「今回の台風被害で今一度、保険と物件防災管理を見直し、できることは事前に準備しておきたい」(不動産賃貸・管理業)との声が寄せられた。

◎消費増税

「消費増税に伴う影響はないが、今後の見通しが不明。消費者の動向がつかめない」(電気工事業)、「消費税引き上げ後の動向が心配」(日本料理)、「増税前特需の為、個人消費が拡大。10月いっぱいには予定が埋まってしまい、現在は11月の注文を受付中」(畳工事請負・畳製造販売業)、「10月からの消費増税に伴う衣料品、日用品等のまとめ買いについては、今の住宅事情等の影響もあるのか、予想より少ない」(大型小売店)、「消費税が上がるが、増税前の駆け込み需要はほぼない」(不動産管理業)、「お客様との金額交渉の際、消費税が上がっても予算が変わらず、実質本体の値引きを強要される場合があり頭が痛い！」(印刷業)、「消費増税に伴う価格転嫁はしなかったが、問屋の輸送費増加や小麦、卵の価額上昇で今後の値上げは避けられない」(菓子・パン小売業)との声が寄せられた。

2019年9月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.3に対し、「CCI-LOBO」が▲20.0で柏の方がマイナス幅が1.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.9に対し、「CCI-LOBO」が▲11.4で柏の方がマイナス幅が12.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.3に対し、「CCI-LOBO」が▲17.5で柏の方がマイナス幅が14.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、建設業、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲36.6に対し、「CCI-LOBO」が▲37.3で柏の方がマイナス幅が0.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△30.9に対し、「CCI-LOBO」が△23.7で柏の方がプラス幅が7.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲9.8に対し、「CCI-LOBO」が▲10.9で柏の方がマイナス幅が1.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。

2019年9月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.3	 ▲ 10.5	 ▲ 40.0	 ▲ 21.7	 ±0.0
CCI—LOBO	 ▲ 20.0	 ▲ 4.8	 ▲ 21.1	 ▲ 27.5	 ▲ 17.1

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 23.9	 ▲ 21.0	 ▲ 33.3	 ▲ 34.7	 ±0.0
CCI—LOBO	 ▲ 11.4	 ▲ 1.0	 ▲ 12.2	 ▲ 16.7	 ▲ 9.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 32.3	 ▲ 21.0	 ▲ 46.6	 ▲ 39.1	 ▲ 21.4
CCI—LOBO	 ▲ 17.5	 ▲ 9.9	 ▲ 18.3	 ▲ 23.9	 ▲ 13.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 36.6	 ▲ 21.0	 ▲ 33.3	 ▲ 47.8	 ▲ 42.8
CCI—LOBO	 ▲ 37.3	 ▲ 43.7	 ▲ 38.6	 ▲ 34.7	 ▲ 34.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 30.9	 42.1	 26.6	 26.0	 28.5
CCI—LOBO	 23.7	 36.9	 14.7	 22.4	 29.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 9.8	 ▲ 5.2	 ±0.0	 ▲ 21.7	 ▲ 7.1
CCI—LOBO	 ▲ 10.9	 ▲ 5.8	 ▲ 7.7	 ▲ 18.8	 ▲ 10.2

CCI - L O B O

商工会議所早期景気観測(9月速報)

調査期間：2019年9月11日～18日

調査対象：全国の338商工会議所が2,614企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、改善するも力強さ欠く。先行きは、不透明感強く、慎重な見方崩れず

9月の全産業合計の業況DIは、▲20.0と、前月から+1.0ポイントの改善。省力化投資を中心とする設備投資や都市部の再開発などの民間工事が堅調な建設業や、家電製品など高額商品を中心に消費税引上げ前の駆け込み需要が見られた小売業の業況感が改善した。

一方、卸売業からは台風15号や大雨の影響に伴う農産物や飲料品の供給不足・価格上昇による業況悪化を指摘する声が聞かれた。深刻な人手不足や原材料費の高止まり、米中貿易摩擦や世界経済の先行き不透明感、根強い消費者の節約志向を指摘する声は依然として多く、中小企業の業況改善に向けた動きは力強さを欠く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲24.5（今月比▲4.5ポイント）と悪化を見込む。個人消費の拡大やインバウンドを含む観光

需要拡大への期待感がうかがえる。一方、消費税引上げの影響や人手不足の深刻化、原油価格を含む原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦の激化や世界経済の動向、日韓情勢の行方など不透明感が増す中、中小企業の業況感は慎重な見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、卸売業、サービス業で悪化、建設業、製造業、小売業は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「消費税引上げ前の駆け込み需要の影響からか発注が増え、売上は増加した。また、台風15号による被害に伴う修理依頼や問い合わせを100件超受けているが、対応しきれっていない」（建築工事業）、「ホテル建設などの民間工事が多く受注は堅調なもの、高力ボ

ルトの供給不足が深刻で、納期の長期化などの影響から着工が遅れている。技術者を中心とする人手不足は慢性化しており、受注量に比べ人手が足りず、厳しい状況が続いている」（一般工事業）

【製造業】「消費税引上げ前の駆け込み需要も見られ、売上は堅調に推移した。10月以降の消費マインドの冷え込みを懸念しており、先行きに對する不安感は拭えない」（家具等製造業）、「米中貿易摩擦や中国経済の減速の影響により日本での生産が伸びず、売上・採算ともに悪化した。影響の長期化を懸念している」（自動車・付属品製造業）

【卸売業】「飲食料品の仕入れ価格の上昇に加え、配送経費の増大による負担が大き

い。一括仕入れを増やすことで対応しているが、一方で在庫過多の状態となつてしま

い、経営が圧迫されている」（飲食料品卸売業）、「台風15号の上陸で産地の花が折れるなどの被害が発生した。品不足に伴い、仕入れ価格が上昇しており、好転する気配がない」（花き卸売業）

【小売業】「消費税引上げの前に、テレビや冷蔵庫、暖房器具などの家電製品や家具などの需要が増加し、客単価が上昇した。前回の消費税引上げ時ほどの規模ではないが、高額商品を中心に好調に推移しており、売上は伸びている」（百貨店）、「消費税引上げを見越した原価上昇があり、採算が悪化した。駆け込み需要の取り込みを図り、売上増加を図りたい」（寝具小売業）

【サービス業】「最近の日韓情勢を背景に客足が減少し、業績は過去最悪となった。看板の多言語表示への切り替えや、中国語への対応を進めるなど、韓国以外の国々へのPR活動を進め、落ち込み分をカバーしていきたい」（公園・遊園地）、「大雨などの天候不順が続く、来店客数は乏しく、売上は落ち込んだ。また、10月からの消費税引上げを前に、全体的に節約ムードを感じており、年末まで続くのではないかと影響を懸念している」（飲食業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲16.7	▲3.9	▲18.3	▲20.5	▲33.9	▲7.9
5月	▲17.1	▲7.7	▲22.3	▲19.8	▲29.4	▲6.7
6月	▲18.3	▲9.5	▲20.0	▲25.5	▲28.3	▲10.9
7月	▲20.2	▲5.6	▲20.5	▲27.4	▲33.9	▲14.5
8月	▲21.0	▲9.5	▲23.1	▲25.2	▲31.1	▲15.9
9月	▲20.0	▲4.8	▲21.1	▲30.6	▲27.5	▲17.1
見通し	▲24.5	▲8.2	▲24.7	▲24.9	▲42.4	▲19.8

柏の景気情報

(9月の調査結果のポイント)

調査期間：2019年9月24日～10月10日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数71件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲18.5	▲26.3	△6.6	▲32.0	▲9.0
5月	▲22.2	▲10.0	▲14.2	▲45.8	▲7.1
6月	▲21.9	▲25.0	▲7.1	▲37.5	▲6.6
7月	▲23.9	▲10.5	▲20.0	▲45.4	▲13.3
8月	▲28.5	▲10.5	▲42.8	▲47.8	▲7.1
9月	▲18.3	▲10.5	▲40.0	▲21.7	±0.0
見通し	▲12.6	▲5.2	▲6.6	▲39.1	△14.2

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

全産業況D Iは改善、先行きも回復を見込むが、不透明感残る

9月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じ)は、▲18.3(前月水準▲28.5)となり、マイナス幅が10.2ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲21.7(同▲47.8)、サービス業▲10.0(同▲7.1)、製造業▲4.0(同▲42.8)である。変らない業種は、建設業▲1

0.5(同▲10.5)である。

【建設業】からは、「間合せが増えたが、シビアな見積もり比較が多い。独自のこだわりがより重要になってきている」「一般土木建築工事業」、「オリンピック後、また増税か」「職別工事業」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「人材確保の為に賃金アップは将来的にも必要。しかし、社内全体の生産性の向上が無ければ実現不可能であり、業務全体の見直し、改善が必要になってくると思う」「自動車付属品製造業」、「政治情勢の経済に与える影響は、一般生活者も飲み込んでい

店」、「例年に比べ誕生日ケーキの販売が少なく、売上が落ち込んだ」(洋菓子店)、「顧客のこだわりが強くなってきたおり、自然素材の住宅を作りたいたいという問い合わせは多い。自社で職人を育成する等、他社との差別化を図る事が今後重要だと考えている」(建築材料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「荷主の適正運賃(運賃、荷待ち時間、付帯作業)への認知が徐々に進んでいるが、採算ベースでは以前厳しい状況」「一般貨物自動車運送業」、「外国人の購入希望者が増加。住宅購入意欲は旺盛。売り物件については高齢者の資産処分、相続案件の相談が多い」(不動産管理業)、「人手不足は何よりも重大な問題、地方からの応援を期待する」(ソフトウェア業)、「従業員不足により生産性が上がらず営業時間が少なくなり、全体的に不足気味だった。10月は1人戻ったのでやや良くなると思う」(食堂・レストラン)、「ダブルデッキ上で商売をしている方達の賃料を知りたい」(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

9月の景気キーワード

◎台風15号

とめ買いについては、今の住宅事情等の影響もあるのか、予想より少ない「大型小売店」、「消費税が上がるが、増税前の駆け込み需要はほぼない」(不動産管理業)、「お客様との金額交渉の際、消費税が上がっても予算が変わらず、実質本体の値引きを強要される場合があり頭が痛い」(印刷業)、「消費税増税に伴う価格転嫁はしなかったが、問屋の輸送費増加や小麦、卵の価額上昇で今後の値上げは避けられない」(菓子・パン小売業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(COI-1080)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲18.3に対し、「CCI-LOBO」が▲20.0で柏の方がマ

イナス幅が1.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、製造業は10ポイント以上悪い。

◎消費増税

「消費増税に伴う影響はないが、今後の見通しが不明。消費者の動向がつかめない」(電気工事業)、「消費税引き上げ後の動向が心配」(日本料理)、「増税前特需の為、個人消費が拡大。10月いっぱい

は予定が埋まってしまい、現在は11月の注文を受付中」(畳工事請負・畳製造販売業)、「10月からの消費増税に伴う衣料品、日用品等のま

進める」(百貨店)、「プレミアム商品券に少し期待」(洋菓子

020年4月、法施行のへの条件整備に向けた取り組みを進める」(百貨店)、「プレミアム商品券に少し期待」(洋菓子